

【別紙】

商品例※価格は全て税込



5分袖プリントTシャツ（ヘラルボニー） 2,990円

日常にうれしいポイント

- ・ややボート気味の襟と体が泳ぐ今年らしいボックスシルエット
- ・長めの袖丈と裾の前後差でさりげなく体型カバー
- ・後ろ襟ぐり内側のアートと連携したカラーループをかけて飾ればTシャツがアート作品に
- ・後ろ襟ぐりから肩のライン裏側の肌にあたる縫い代は、ごろつきに対応した裏バインダー始末で丁寧な仕上げ



プリントエプロン【撥水】（ヘラルボニー） 5,490円

日常にうれしいポイント

- ・ウエスト部分の切替えを折り返すとサロンエプロンとしても着用できる2WAYデザイン
- ・右後ろ側にスマホなどが収まる大きなポケット付き
- ・左前側にタオルなどを掛けられるループ付き
- ・首元のループで長さを調整可能
- ・水仕事にうれしい撥水機能



【受注生産】

バレエシューズ [ベネビス/BENEVIS]（ヘラルボニー） 11,900円

日常にうれしいポイント

- ・ご注文いただいてから1足ずつ丁寧にお作りし、約40日でお届け
- ・同じアートプリントを使用したポーチ付き
- ・地上から約1.5cm高の水位で約3時間水が浸透しない防水仕様
（※）一般財団法人日本繊維製品品質記述センター調べ
- ・濡れた地面でも滑りにくい、セラミックス配合のソール
- ・抗菌加工よりも細菌抑制力を持つ、SEKマーク付きの中敷

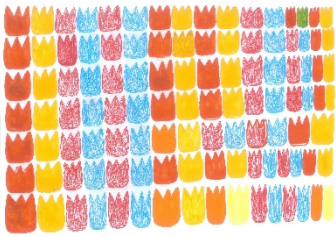


アートフラワーベース（ヘラルボニー） 1,690円

日常にうれしいポイント

- ・まるでオブジェのような見た目、お花を飾っても、そのまま置いておいても絵になる
- ・お花を挿す部分は試験管のような形状で取り外しでき、簡単に水の入替えができる
- ・花瓶のフチにはアンティーク風の風合いのある加工
- ・お花以外にも、スティックとアロマを入れてリードディフューザーとしても使用可能

作家および作品の紹介



「チューリップ」

五十嵐 成美 (Narumi Igarashi) 氏/
工房ぱれっと (東京都)

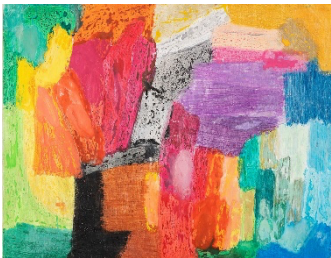
意識を集中して形を確かめながら輪郭を描く。その中にクルクル軽快にペンを走らせ、一面の花畑を描き出す。



「タムタムドット」

郁美 (Ikumi) 氏/
多夢多夢舎中山工房 (宮城県)

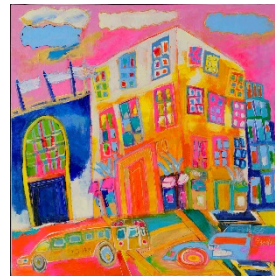
ダンス、朗読、コラージュなどに取り組み、フェルトを丸い形に切ってトワルに貼ることを続けている。好きな武将は「多すぎて選べない」。



「Scratch Works Yay! Yay! No.20」

岡部 志士 (Yukihito Okabe) 氏/
希望の園 (三重県)

クレヨンで塗った面をニードルで削るようにして描く。本人いわく削りカスを集めて作る固まりこそが作品。



「ティファニー前 New York」

衣笠 泰介 (Taisuke Kinugasa) 氏/
個人 (京都府)

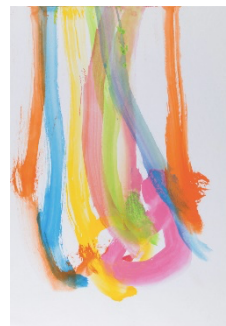
2歳から絵を描き続ける。生きることは描くこと。マジカルとも評される色彩感覚と感受性で、光と色彩に溢れた世界を描く。



「ノルウェジャンフォレストキャット」

小林 泰寛 (Yasuhiro Kobayashi) 氏/
アトリエブラヴォ (福岡県)

仏像好きの彼は、ただ無心に、ただ几帳面に、好きな世界遺産や広大な風景の写真を描く。



「無題 (どうぞ)」

笹山 勝実 (Katsumi Sasayama) 氏/
unico/はじまりの美術館 (福島県)

色とりどりの丸や線は筆跡が紙からはみ出ており、彼女の力強さとおおらかさが表れている。



「まる」

竹内 聖太郎 (Shotaro Takeuchi) 氏/
多夢多夢舎中山工房 (宮城県)

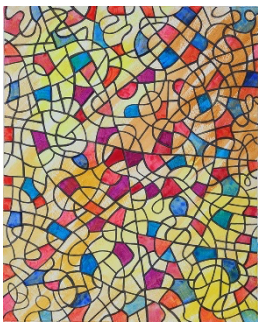
絵の具、色鉛筆、デザインペンを駆使して、全体の余白を生かすようなデザイン性の高い作品を仕上げる。



「せん」

肥後 深雪 (Miyuki Higo) 氏/
アトリエやっほう!! (京都府)

その時の気分で色鉛筆、水彩絵具、刺繍糸などを使い分ける。どの作品も彼女の優しさが滲み出ている。



「キクノハバシキ」

本田 雅啓 (Masaharu Honda) 氏/
PICFA (佐賀県)

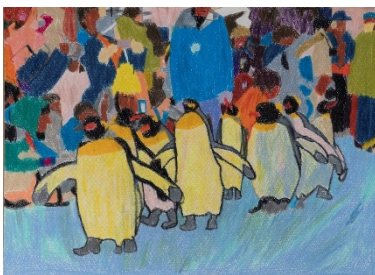
幾何科学模様や風景画など、描く作品は様々。同じ作風を2、30点描くと、全く違う描き方で表現する。



「無題(1)(2018)」

南 保孝 (Yasutaka Minami) 氏/
アトリエやっほう!! (京都府)

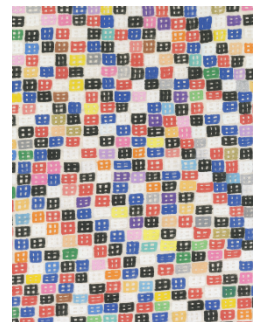
約10年に渡る創作活動で最も描いたモチーフは「かお」。自分や身近な人の顔で紙面いっぱい埋め尽くす。



「ペンギンの散歩」

吉田 裕志 (Hiroshi Yoshida) 氏/
アトリエやっほう!! (京都府)

写真をよく見て描いているが、彼が描くとより鮮やかでポップな色となり、人物は陽気でユーモラスに溢れている。



「ビル」

渡邊 昌貴 (Masaki Watanabe) 氏/
多夢多夢舎中山工房 (宮城県)

双子の弟。トワール制作を始めてからペンを用いるようになる。最近は兄の影響かペンで四角を描く。

以上